

# しごもり



第 14 号

1996年8月

日本野鳥の会三重県支部

「コノハズクの声を知ろう」に参加して

森田朱美 (久居市)

コノハズクとはいったいどんな鳥なんだろう・・・？

早4枚目の会員証が届くというのに、鳥の名前すらよく知らない私です。  
名前はわからないけどきれい！とかかわいい！と思うことで満足してきましたが、ふとしたことがきっかけとなり、今回初めて探鳥会に参加させて頂きました。

6月22日(土)夕方、梅雨の晴れ間が覗きました。  
キセキレイやイモリ？を観察、アマゴの稚魚が泳ぐ池の近くで食べるお弁当は、普段食べるお弁当より数段美味しいような気がしました。

暗くなるのを待ってから、耳をずっと澄ましていましたが、川のせせらぎとジェット機の音しか聞こえてきません。

「場所を変えます。」と言われた時、今日はまだ鳴いてくれないのかと少々あきらめていました。  
ほんの数分歩いたところ、8時過ぎだったでしょうか・・・

コノハズクは一生懸命鳴いていました。  
山の向こうの何処からか聞こえる声は、幻想的というか、ロマンチックというかとても素敵な声でした。

1羽だけだったようですが、「来てよかった。」と思いました。

今回初めて参加させて頂いて感動してしまったのが、皆さんの観察力、洞察力です。  
一緒に行動し、同じ方向を見ていても視点が違うのでしょうか・・・いや例え気付いて見ても、鳴き声が聞こえても、私には「鳥」かな？と思うだけで精一杯です。

同じ場所に居ても残念なことです。  
何もわからない私に色々教えて頂いて、有り難うございました。

勉強不足で、何もわからない私ですが、皆さんに教わりながら、鳥のことをもっとよく知り、自分に出来ることを探していきたいと思います。



今号の表紙 絵：今村 禎

目次

会員のページ	-----	2~8
探鳥地マップ⑥ 五十鈴公園	---	9~10
ワンドルト野鳥保護②	-----	11
野鳥情報	-----	12
探鳥会報告	-----	13~15
ガン・カモ科調査報告	-----	16~17
お知らせ	-----	18

ミソサザイ Troglodytes troglodytes

『フィールドガイド日本の野鳥』には「日本では最も小さな鳥の一つ」と紹介されています。ほんとうに小さな鳥ですが、溪流のある林に住む鳥らしく、大きく美しい声でよくさえずります。もともと、三重県内では大台が原など少し高度のある所でないとさえずりを聞くことは難しく、むしろ冬に里近くの谷あいなどで地鳴きを聞くことが多いのではないのでしょうか。地鳴きはウグイスに似ていますが、もう少しはっきりした強い鳴き方です。なんだろうと思って近づいて見ると、その小さくてひそやかな姿に驚かされてしまいます。

屋久島エコツアー・レポート

吉居 清 (伊勢市)

一度は訪ねたいと思っていた屋久島へ宮田たづ、中村洋子、林淳子、吉居瑞穂と私の5人で、4月30日から5月3日にかけて行ってきました。屋久島は日本一の多雨地帯。年間降水量は平地でも4000mm、山地ではなんと8000mm以上も降り、しかも5月が1年で最も雨が多い月とのことで天気が心配でした。

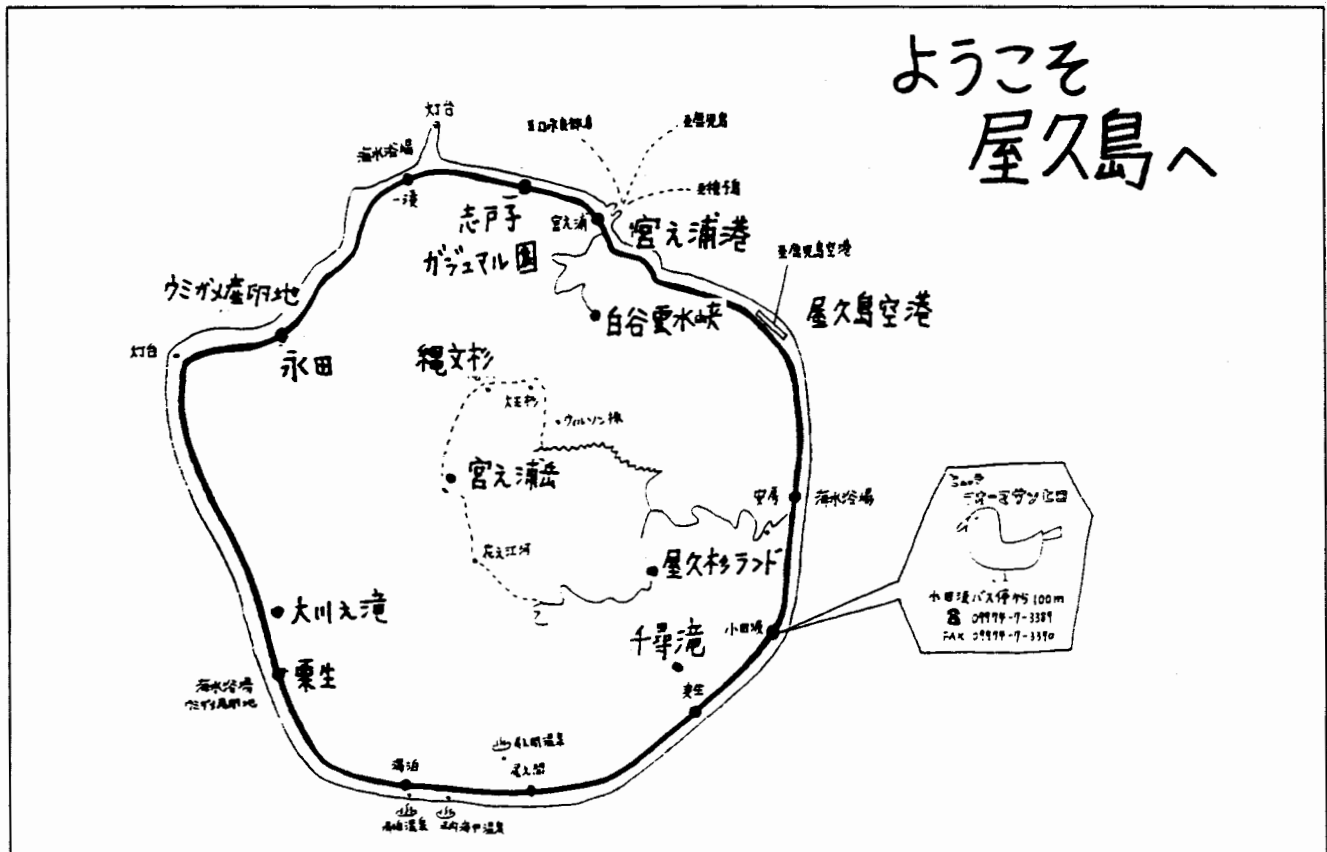
4月30日午後、屋久島空港につくと、心配したとおり小雨が降っていました。空港に出迎えていただいた水野さんの車で約30分、宿の「ヒュッテ フォーマッサン・ヒロ」に着きました。ヒュッテは東に太平洋を見下ろす台地にあり、1年前にできた真っ白い平屋建てです。第一夜は激しい雨音を耳にしながら、眠りにつきました。

ところで、屋久島は周囲約132Kmのほぼ円形で、最高地点は九州の最高峰である宮の浦岳の1935m。不案内な土地であるため、今回は日本ではまだ珍しい「エコツアー」を使って島内を回ることになりました。エコツアーは当地の自然に詳しい専門家が小人数の客に自然

の素晴らしさを説明しながら案内する旅の方法で、これを業としている企業は日本ではまだ3社、この内2社は屋久島にあります。我々は水野さんのお隣で開業しておられる(有)自然島の中田隆昭さんをお願いしました。中田さんは昆虫の専門家で植物、地質にも大変詳しい方ですが、鳥はあまり得意ではなかった。渡りをする蝶として知られている、アサギマダラの渡りの情報センターをしておられるとのことでした。

5月1日、晴れ。島の天気は山のむこうとこちら、山の上と下では全然違うので、中田さんは山にかかるガスの様子を見ながら今日の予定を立ててくれました。午前8時30分、我々5人と愛知県から来た若いカップルの合計7人、中田さんの車で出発。

最初に訪れたのは「志戸子ガジュマル園」。大木に着生し、太いつるのような気根を何本も出し、ついには宿り主の木にからみ付いてしめ殺してしまうというガジュマル林を見学。続いて日本一の海亀産卵地「永田いなか浜」へ。浜に行く途中、東支那海を見下ろす



四瀬ノ鼻の断崖絶壁の上で「この崖の下の海には上陸前の海亀が来ているはずですよ！」という中田さんの話しに、双眼鏡で海亀探しを始めました。最初に見付けたのは林さん。亀が呼吸するために海面に浮上してくるもので、赤茶色の小さな板が浮かんでいる様な感じに見えます。ガイドの中田さんや若いカップルはなかなか見付けられず、さすがに野鳥の会メンバーの実力は見事なものでした。でも残念ながらいなか浜には、海亀はまだ上陸していませんでした。

今日のハイライトは標高800mの「白谷雲水峽」。まず巨大な樹齢2000年の弥生杉、聴診器で木の中を流れる水の音を聞こうとトライしましたが、なかなか聞き分けられませんでした。ここでは大きな木という木に着生植物が育っていて、そこから太い気根を何本も出している様は、熱帯のジャングルのような感じでした。

5月2日も晴れ。今日も中田さんのエコツアーでメンバーは我々5人だけ。まず、標高1200mの「屋久杉ランド」に向かいました。ここは白谷雲水峽よりも広く、江戸時代に切られた巨大な杉の切り株、江戸時代に切ろうとして切れなかった斧の跡も生々しい屋久杉、倒れた屋久杉の上に生えている倒木更新の大きな杉、苔むした谷筋、苔の中に見られるヒメアリドオシやオオゴカヨウオウレンなどのミニ植物、激しい流れと石の作用で大きく、深い丸穴（ポッド・ホール）が開いた大きな岩、そしてコマドリ、ミソサザイ、ヒガラの声…など屋久島の大自然を満喫しました。伊勢神宮には大きな杉の木がありますが、1000年以上の風雪に耐えてきた屋久杉の風格には圧倒されました。最も有名な縄文杉までは行けませんでした。弥生杉、仏陀杉などいくつかの有名な屋久杉を見ることができました。また、江戸時代に切られた切株や切られて残った幹なども、一皮むけば今でも新鮮な木肌が出てくるとのこと、屋久杉の強さを改めて感じました。

次は島の南西にある「大川（おおこ）の滝」。水量が豊かで、しぶきを浴びながらしばし休養。最後は栗生（くりお）の「サンゴの浜」で、皆で気に入ったサンゴを拾い集めました。

最終日の5月3日も晴れ。午前中は水野さんの案内で、まず近くの巨大な岩壁に囲まれた「千尋滝」に行き、続いて「春田浜」では潮の引いた岩場で生きたサンゴを見て、最後に空港まで送っていただきました。

今回の屋久島ツアーでは、あまり多くの鳥には会えませんでした。5月には冬鳥は全て北に帰り、夏鳥も大半が本州方面に通過してしまっているからで、水野さんによると鳥が最も多いのは3月とのことでした。しかし、毎朝の探鳥のとき、沢山のツバメが北に向かって飛んでおり、またアマサギが田や畑で沢山見られました。結局、屋久島滞在中に我々5名が見た鳥はズアカアオバト、カラスバトなど37種類でした。また、出会ったけものはヤクザル、ヤクシカ。ヤクザルは車の前方を横切った一瞬を見ただけでしたが、ヤクシカは白谷雲水峽や屋久杉ランドで、我々の直ぐ近くに現れたのをじっくりと見ることができました。

4日間のうち3日間も好天に恵まれ、清潔な宿とおいしい食事、水野さんご夫妻の心のこもったもてなしを受け、楽しく過ごすことが出来ました。閑散期に2週間以上泊まると、宿泊費が大幅割引になるそうです。また、初めてエコツアーを経験しましたが、中田さんの解説で屋久島の素晴らしい自然の本質の一端が理解できたようで、満足しています。しかも効率よく島を回ることができたので、費用は一人1日6,000円ですが、バス・タクシーなどの交通費を考えても絶対のおすすめです。鳥を見たい方は、鳥の多い3月に行くのがよいかもしれませんね。

屋久島で水野明紀さんが経営するヒュッテ

ヒュッテ フォーマサンヒロ

鹿児島県熊毛郡屋久町

Tel

Fax

屋久島たより

水野明紀 (三重県支部屋久島支所長)

その 1

大分古い話になりますが、9月に入るとアカハラダカが薩摩半島を南へ移動する記事が新聞に度々載ります。それならば屋久島も通過して行くのではと思ひ、昨年サシバの渡りの観察会があったという島の西端にある永田岬へ9月15日に行ってきました。

当日は良く晴れてはいたものの風が強く、トビ1、スズメ1 (スズメが何故集落から離れた所にいるのか不思議でした) を岬で確認できたのみでした。

家のすぐ裏にちよっと開けた所があります。朝とか夕方、時間があるとそこへ家の猫を連れてよく行く場所ですが、別にそこへ行くといひことがあるという事でもありません。ですが、9月19日に何気なく空を見上げましたら、小型のタカが旋回しています。翼の下面に斑がなく翼端が黒いアカハラダカでした。谷間からも舞い上がりその時は10羽となり南西の方へ渡って行きました。その後9月27日に5羽同じ場所で見ましたので、予想通り通過して行き、しかもねぐらに模しているようです。

10月の上旬には1日でサシバが3,000羽+ (ノートが行方不明で何日だったか) その他にチゴハヤブサ、ハチクマ、ハイタカが通過して行きます。

アサギマダラもよく見かけますが、羽が綺麗なのでこの島で生まれたものらしく、ここを通過して行くかどうかはいまのところ分かりません。

その 2

「鬼火焚き (オンドヤ・オンタイビ) 正月7日にほとんどの集落で行われます。束ねた竹の先に鬼面を書いた紙やわら人形を吊り下げ、河原などに立てて下から門松に使ったシイやウバメガシの祝木で燃やし、鬼面を弓で射たりします。各集落で方法は少しずつ異なりますが、祝木の燃え残りを持ち帰り、厄除けにする行事です。」 (株式会社八重岳書房発行カラーガイド「屋久島」による原文のまま)

その行事が今住んでいる高平地区で1月7日行われることになっていましたが、当日は朝から天候が不安定で「こんな日に出来るのか」と実施が危ぶまれましたが、実行時間の少し前になりますと雨は上がり「実施

します」と放送が入りましたので、名古屋から遊びに来ていた人と高平地区公民館横のグラウンドへ出かけました。

グラウンドの片隅には青竹が1本高く伸び、その根元には笹や竹が太く巻かれており「左義長」とか「どんど焼き」と形はほぼ同じでした。それらと少し異なるのは、高くのびた竹の先に滑車が付いています。

直ぐ近くのペンションの奥さんが車から絵を取り出しました。丸めてあるのを広げると畳1枚位で「鬼の絵だ」くらいにしか判らなかつたのですが、その絵を滑車から下がっている紐にくくり付けて、区長さんが普通車トラックで引っ張り上げると、「男」「女」「大きい」「男にしてはオッパイが」とか「笑い声」も聞こえてきます。地面ではよく判らなかつた絵が滑車で高く上げられると「鬼」としてよく判るのですが、「男鬼」だか「女鬼」だかよく判らないものだから皆口々に勝手な事を言っているのですが、お年寄りが「今年は女」と、そう言われてよく見ると、金棒を持っていない、角そして足と手の爪が紫色に塗られていておしゃれである、そして非常に肉感的である、ただ黒々としたヘアーとその中央部分に縦に細長く塗られた赤色が卑猥な感じがしない訳ではありませんが、全体的にはおおらかに、明るく描かれておりました。

でも、こんな絵を町の中のデパートとかスーパーの外壁にでも吊り下げたら、「公序良俗に反する、直ちに下ろせ、教育上よろしくない、誰が描いたのか出てこい、ケイサツを呼べ」となるところでしょうが、太平洋と照葉樹の見える広々とした自然の中では、誰もそのような事はいいません。

「御神酒 (焼酎ですが)」を頂き、刺し身、焼き魚、ビール、焼酎等がふるまわれ、笹に火が付けられ炎は勢い良く高く上がって行きます。鬼の絵が少しずつ下げられると、若者や子どもたちがその鬼の絵をめがけて一斉に石を投げつけ始めました。以前は手製の弓で射たそうです。かわいそうに女鬼は下から火で炙られ、石を投げつけられボロボロになりやがて燃え尽きてしまいました。

周りは薄暗くなりました。でも行事はなおも続くようです。

【編集部註】

本当に古い話になってしまいました。吉居さんの原稿につられて、屋久島だよりのストックから引っ張り出してきたのですが、昨秋から今年初め頃の原稿で、時期がすっかりずれてしまいました。水野さんお許しください。

私のファーストバード

橋本 富三 (津市)

野鳥に興味を持ったのは、今から5年ほど前の秋だった。以前から野草の写真を撮るのが好きだったので、その日も安濃川の河口に何か花が咲いていないかと思いき出かけて行った。

行って見ると、いつになく愛知県や滋賀県などの県外ナンバーの車が堤防に列をなしており、沢山の人が双眼鏡や望遠鏡で海のほうを覗いて興奮している。

何か面白い物があるのかと、一人の人に望遠鏡で見せてもらおうと、沖の方に真っ黒けのアヒルみたいな鳥が2羽、藻のようなものを食べているのが見えた。聞いてみるとコクガンという天然記念物の鳥だそう。確かにカモメとは違う。いつも見慣れているこんな所

にそんな珍しい鳥がいる事がとても不思議な気がした。

帰りがけに、早速本屋で野鳥図鑑を見ると、「渡来数は少ない」と書いてあった。

次の日、昨日の鳥が気になって、奥さんを誘い、また出かけてみた。日曜日のせいか昨日より沢山のバードウォッチャーがいた。今日は志登茂川の方に、ミヤコドリがいるという。見れば600ミリぐらいの望遠レンズを付けたカメラマンが、少しでも近くで写真を撮ろうと砂浜を這って前進している。長い嘴は赤く、背中が黒い奇麗な鳥だと思った。

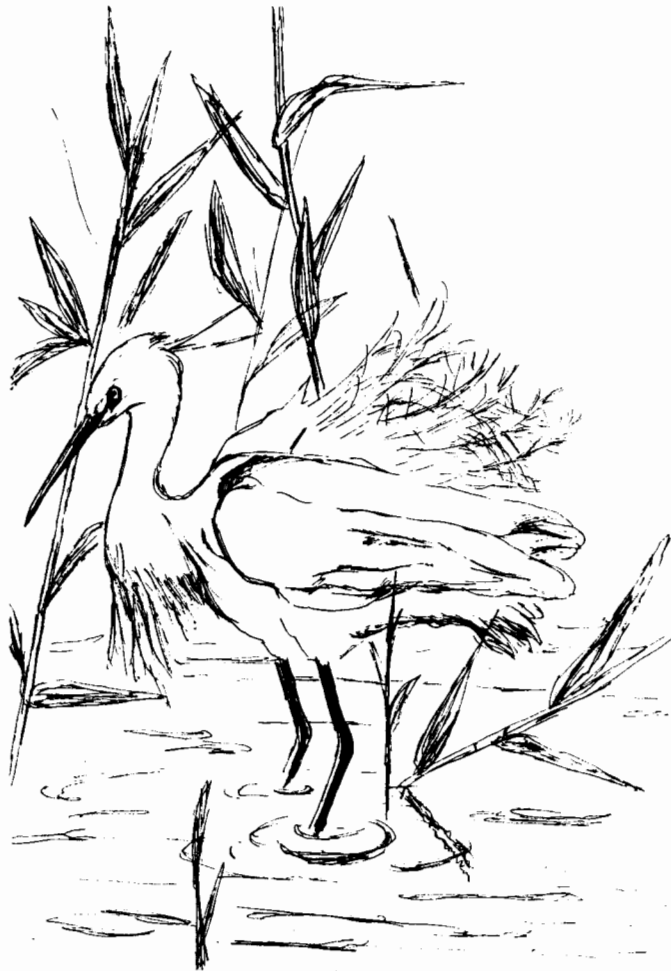
帰りに本屋で野鳥図鑑を調べると、今度は「旅鳥または冬鳥として、各地の干潟に渡来するがまれである」と書いてある。本のタダ見ばかりでは申しわけないので、その場で図鑑を購入した。

これが私のファーストバードになった。それまでスズメとカラス、海のカモメぐらいしか知らなかったが、身の回りにはそれ以外にもカワラヒワやモズ、ジョウビタキなどがいることが判った。「一筆啓上仕り候」とさえずるのを聴いて、あれがホオジロかと感激したのもその頃であった。

それからは面白くて志登茂川や近くの雑木林に出掛けてみた。行く度に新しい野鳥が発見できた。しかし、シギやチドリの中には、初めて見る鳥であるが図鑑で見ても似たような鳥が沢山出ており、種類の特定ができない事が多くあった。

(5年経った今でも余り状況は変わっていないけど。)

1年半ほどたった春、新聞の催し欄に「津公園で探鳥会がある」と書いてあるのを見、思い切って出かけてみる事にした。14~5人程の人が集まっていたと思うが、素晴らしいリーダーの人達が沢山おられた。リーダーの人達は野鳥ばかりでなく、樹木や野草にも詳しく、初心者の方にも親切に対応していただいた。この時の探鳥会の印象がとても良かったので、すぐに入会する事にした。ちょうど三重野鳥の会から、日本野鳥の会三重県支部に組織が変わった頃であった。



カット：橋本恵子さん（富三さんのお嬢さん）

それから4年経った。今年の1月には初めてリーダーもさせて貰った。自分が初めて参加したときの事を思い出し、少しでも良い印象を持って貰えるようにと思いやらせて貰ったが、どうであったろうか。

一人でも野鳥に興味を持ってくれる人が増え、野鳥を通して見えてくる身近な川や海、樹や森、山が今どんな事になっているのか、これからどうすれば良いのかなどを考えてくれる人達が増えれば、少しは自然破壊が食い止められるのではないだろうか。

#### 野鳥の会に入って良かった事

- 1 今まで気づけなかった自然が、野鳥を通じて少しずつ見えるようになってきた事
- 2 自分の気持ちが、周りの人や自然に対し少し優しくなった事
- 3 今までとは違う世界の人達と、付き合えるようになった事
- 4 旅鳥を見て、季節の移り変わりが実感できる事

- 5 朝早くからする事ができた事(歳を取ると早く目が覚める)
- 6 会社の昼休み、保険のセールスレディに「ご趣味は」と聞かれて答えられる事

#### 野鳥の会に入って悪くなった事

- 1 三面張りの川を見て、カワセミの巣がどうなったのか心配になる事
- 2 ゴルフ場オープン of 広告を見ると、3日間気分が悪い事
- 3 「あー紅白歌合戦のとき得票数を数える人の事ですか」と言われた時
- 4 焼き鳥を食べる時ちょっと心が痛む事

40歳を過ぎてから始めた事は一生続くそうである。細くても良いから無理をしないで長く興味を持って続けていきたいものである。

### 探鳥の記・その2 ～5月の観察記録から～ 矢田栄史(菰野町)

木々の緑も日ましに濃くなり、野鳥たちも子育てに忙しい様子です。

5月2日(木)午後3時ごろ、自宅近くの空地で、モズの巣立ちビナ2羽に親鳥が給餌。親の動きを追うと、飛んでいるムシを一直線に追ってつかまえていました。次の日の早朝6時ごろに見にいくと、電柱の一番上にハシブトガラスがとまっていて、すぐ近くの電線にモズ(親)がキチキチキチというかん高い声でいかくしている様子でした。

5月11日(土)菰野町千草の水田でアマサギ(6)を初認。

5月13日(月)菰野町三重用水菰野調整池付近の林。いつのまにか、私のすぐ近くの高さ20m程の木の上あたりにトビがとんで来て、私に驚いたのか急旋回してとびさる。そのために羽根が1枚ヒラヒラとまい落ちる。これは私へのバードウィークのプレゼントかと思いつつ、ブッシュをかきわけひろいました。持ち帰って計って見ると、長さ37.5cm、最大幅6cm、羽軸8cm程のさすがに大きくまたきれいな羽根です。

この1時間程あとには、オオタカと思われるタカの飛びを10分間程観察。ゴルフ場の芝生へ二度ほど降下し

かけたり、モビングしにきたカラスを逆に追いかけてりと、じっくり見えました。

5月16日(木)鈴鹿の山へ。朝明溪谷から羽鳥峰へ。登る途中沢近くのちょっとした土手で、ミソサザイの営巣を確認。羽鳥峰で昼休み中、遠くからカッコウの声(3回)と、コマドリと思われる大きな声。いずれも初めてききました。

5月19日(日)宇賀溪から砂山めぐりのハイキング。魚止滝、五階滝、長尾滝とすばらしい溪谷美をたんのうしたあと、砂山付近で午後3時ごろ、ポポ、ポポというツツドリらしき声を確認しました。(初)

野鳥以外では、この5月2日から20日までの間に、オオカマキリの孵化したばかりのところや、アマガエルの鳴く様子、トカゲが毛虫らしきものをつかまえて食べるころ、また、キツネと思われる死体(シッポの毛のみ残ってあとは食べられたか白骨化)、昆虫のシリアゲムシの交尾等、始めて初めて見る事ばかりで驚きの連続です。しかし、林へ行けばスズメバチがいて、何度か退散した事もあります。

いろいろ書きましたが、会員の皆さんへハッピー・バードウォッチングといいつつしめます。

「トリ」違いの話

杉浦邦彦 (伊勢市)

「うへっ！ 臭い。カメムシの異様な臭いで鼻が曲がる。緑色のカメムシの大群が道路一面にひっくり返っている。」

私が、いつものように、目覚まし代わりに家の前の道路掃除に出て、驚いたときの朝の第一声でした。(5月29日午前5時ごろのことで、カメムシの臭いが残らないようにビニール袋に集めました。広さは8㎡余りに、500頭以上のカメムシが散乱していたのでした。)

カメムシはセミの仲間。強いストロー状の口で植物体の液を吸って生きている昆虫達です。「米」の文化を持つ私達には、ウンカ、ヨコバイ。園芸家の悩みは、アブラムシ、カイガラムシ。それに、ここでいうカメムシがそれで、共に害虫。農薬散布をしても害虫退治の効果がない虫達だということしか頭に浮かんでこない動物です。

さて、カメムシは体が平たく、前翅の元のところは硬く、先の半分ほどが軟らかい翅となって、外敵から身を守るために強烈なカメムシ特有の異臭を放つのです。誰もが一度この虫に出くわすと一生忘れないようです。

さらに、彼らの食事は植物の新芽、花の蕾、果実の液で、これを吸って生きています。また、かなりの飛行力を持ち、動作は機敏で紫外線の多い灯火によく集まります。卵や幼虫のころは、親が六つんばいになり、彼らを上から覆うようにして守り、危険だと察すると危険信号のカメムシ特有のフェロモン(ホルモンの一種で独特の臭いを持つ)を発生します。

そんなわけで、犬は勿論、人も逃げ出し、同じ昆虫の仲間ですえ敬遠します。

野鳥は好んで昆虫を食べますが、カメムシを食べているのを見かけるのは決まって厳冬時です。私が見たのは、カラス、スズメ、ヤマガラです。これは餌となる昆虫が少ないからなのでしょう。春から夏にかけては、悪臭をがまんしてカメムシを食べなくても、もっとうまい昆虫がいっぱいいるので、カメムシを食べるのは、ついおよび腰となり見向きもしないのでしょう。大量のカメムシになると、つい逃げ出したくなるのは人間に限ったことではないようです。ツチグモなども巣の近くにカメムシが大量にいと、一時は捕獲するように見えるが、巣の入り口から遠ざけるように放り出してしまふ光景さえ見られます。

さて、私の家の前の道路には蛍光灯の街灯が三基あります。5月29日から6月9日の12日間に毎朝チャバネア

オカメムシを掃除した総数は、4,000頭にのぼりました。隣の庭は表面の土が見えず、緑色に変化した程でした。数えてみると、チャバネアオカメムシがなんと3万頭以上の死骸となって散乱していました。今は大発生も下火となりましたが、伊勢市街地の中心部にあたる外宮の森と伊勢市駅の間にあるモール化された歩道は、まだカメムシの大発生はおさまらず、森に近い街灯ほど死骸が沢山散乱し、悪臭は濃霧に乗って周辺の人家にただよっていました。ここでは、3万頭ほどが歩道を埋めつくしていました。

これらのことがあって、私はカメムシに気をとられ、ホオズキカメムシ、ホソヘリカメムシ、アカスジカメムシ、アオクサカメムシ、クサカメムシ、マルカメムシ、チャバネアオカメムシの7種を観察する機会を得ました。

カメムシの異常発生は、暖冬続きと山の単純なスギ造林地の増加だと言われていますが、生物の多様性の大切さと、自然の安全な生態系のカラクリを学ぶことができ、また、その恩恵を違った角度から観察することができ、感動せずにはいられませんでした。

今回は、とんだ話のとり違いから鼻持ちならない話になってしまいました。

(南勢地区会の会合から)

密猟パトロール報告書

高 和義

実施日時……平成8年5月13日6時15分～8時30分

参加者………10名

内日本野鳥の会三重県支部1名

(高 和義)

パトロール場所

二班に別れ、無線携帯でパトロール

第1班…員弁大池～員弁公園および南中津原の林道周辺

第2班…大安町一円

結果………パトロール場所での密猟者はいなかった。

鳥獣保護員の辻氏からパトロール

時期は遅きに失する旨指摘された。

その他………員弁警察署橋本生活安全課長からオウム逃走者に関する通報の要請があった。



# 探鳥地マップ (6) 五十鈴公園

所在地 伊勢市宇治館町  
 時期 9月下旬  
 ~3月下旬



ヒトコネ  
 ヒトコネ

WC

県営体育館駐車場



浦田橋

神宮司庁

野球場

N



禁複製 (財) 日本野鳥の会三重県支部

伊勢広域センター  
 伊勢道路  
 至鳥羽  
 至津

……イカルの鳴き声を聞きに行こう……

## 五十鈴公園

三交バス・浦田町バス停下車

徒歩約10分

自家用車駐車可（無料）

五十鈴公園は、伊勢神宮（内宮）と朝熊山そして五十鈴川に囲まれた所に位置し、三重県営陸上競技場、体育館に隣接した緑の濃い鳥たちにとっても人にとっても憩いの場所になっておりカラ類、冬はツグミ類が多く見られ9月下旬から10月上旬にかけてはサシバ、ハチクマ等のタカ類が見られるかもしれませんが、少し足を延し五十鈴川に出ればサギ類、セキレイ類そしてカワセミのダイビングが見られるでしょう。

### 【今までに観察された主な鳥】

カワラヒロ、シメ、イカル、アオジ、ジョウビタキ、ツグミ、シロハラ、ビンズイ、ハクセキレイ、キセキレイ、セグロセキレイ、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ウグイス、ヒヨドリ、ムクドリ、ホオジロ、ウソ、スズメ、ハシボソガラス、ハシボソガラス、コゲラ、アオゲラ、キジバト、トビ、サシバ、ハチクマ、ミサゴ、ノスリ、ゴイサギ、コサギ、カワセミ 他

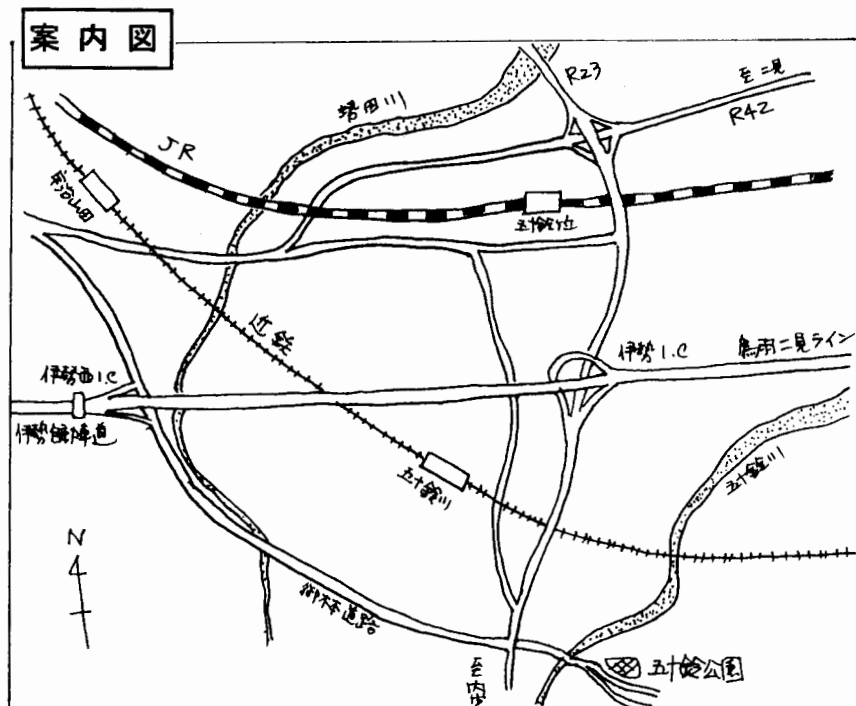
☆五十鈴川の御側橋周辺に桜が多く春には花見客でにぎわいます。

☆食事、喫茶等は浦田町バス停周辺にあり。

☆その他、赤福本店の前にある『おかげ横町』は観光客でにぎわっています。

☆車で来る場合は、伊勢自動車道 伊勢インターから約10分。

☆駐車場は浦田駐車場、五十鈴川河川敷に駐車可能（無料）



## ワンポイント野鳥保護② 傷病鳥の救護・その1

## 1 傷病鳥とは？

外敵に襲われたり、ガラス窓などの人工物にぶつかりたりして傷を負ったり、病気や渡りの際の疲労などにより衰弱して飛べなくなった野鳥を傷病鳥と言っています。自然界の中では、これらの野鳥の多くは人知れず死んで行く事になるのですが、人間が発見しその窮状を知った時、彼らをどうするのかという点で、私たちとのかかわりが出てきます。つまり、ここで問題にするのは「人による救護が必要な傷病鳥」ということになります。

## 2 なぜ人間が助けるの？

ではどうして人間が野鳥に救護の手を差し伸べなくてはならないのでしょうか。

自然界では死んでしまうものをわざわざ助けることは、不自然なことといえます。弱っている鳥は自然淘汰という自然の摂理のあらわれであると捉えたら、人間の手を加えることなく放置するのが正しいのではないかという意見もうなずけるところがあります。現にそのように取り扱っている国もあるということです。

しかし、傷病の原因をもう少し考えて見ましょう。その中には、冒頭でも書いたようにガラス窓にぶつかり、人が飼っているネコに襲われたり、あるいは今年特にその犠牲が目立ち、新聞でも報道された、釣り針・釣り糸によるものなどがあります。病気にも、農薬などの様々な化学物質による中毒や、環境の汚染によって起こるもの、あるいは開発により生息場所をせめられたことにより餌に困り衰弱したものもあることでしょう。つまり、傷病の原因のかなりの部分は私たち人間によって引き起こされたと考えられるのです。このように考えた時、「地球の仲間」として、傷つき弱っている野鳥を救おうとするのは私たちのつとめではないのでしょうか。また、人間の自然な気持ちとして、弱っているものを看過できないということもあります。さらには、子ども達に対する教育上の観点という一面もあるでしょう。

野鳥の会としては、人と野鳥が共存できる環境を守る活動することが第一義的で最も重要とは思いますが、目の前の傷ついた鳥も救ってやりたいと思います。

## 3 救護のルールとシステム

傷病鳥を救護するにはその鳥を捕まえなくてはなり

ません。ところが、野生鳥獣の捕獲は「鳥獣保護及狩猟ニ関スル法律」によって厳しく制限されています。ですから、傷病鳥の救護にあたっては違法な捕獲と誤解されないよう、救護のルールを守ることが大切です。三重県では、「傷病野生鳥獣救護実施要領」によって、そのルールやシステムを定めています。

それによると、救護の方法は次の3通りとなります。

## ①発見者が救護する場合

傷病鳥獣の発見者が救護の窓口に連絡し、その指導により保護飼養を行ないます。

## ②ボランティアが救護する場合

発見者が窓口連絡し、その指示によりボランティアに搬送（あるいはボランティアが引き取り）してボランティアが保護飼養を行ないます。

## ③指定医で救護する場合

発見者が窓口連絡し、その指示により発見者あるいは窓口が指定医に搬送、治療や保護飼養を行ないます。

[註]・救護の窓口＝市町村（「農林課」などが多い）、ボランティア、鳥獣保護員、および指定医。

- ・ボランティア＝三重県傷病野生鳥獣救護ボランティアのこと。支部会員も多い。
- ・指定医＝三重県野生鳥獣ドクターのこと。獣医さんになる。高橋副支部長もそのおひとり。

この内、私たちが関係するのは①ということになります。傷ついた鳥を発見したら、まずそれが救護が必要かどうかを見極める必要があります。「要領」でも、「野生において充分生息できる見込みのある鳥獣は、野生で回復させ、保護捕獲を行わない。」と明記されています。次に、必ず救護の窓口連絡し指示を受けます。その上で、「保護捕獲」し、保護飼養することとなります。また、長期の飼養（1ヶ月以上）には市町村長の許可が必要です。

具体的な救護の方法については次号で触れて見たいと思います。（この項続く）

参考図書：「野鳥のためのりーふガイド」

（大阪府農林水産部）

シギ・チドリ類1996年春の観察記録

多田 弘一 (嬉野町)

1996年春のシギ・チドリ類の飛来状況を観察した。主たる観察場所は、雲出川河口から三渡川河口までの三雲町の海辺とその後背地である。松阪市愛宕川・金剛川河口も週1～2回ほどの頻度で観察した。

探鳥歴も2年目の春となり、種の識別に要する時間は短縮したが、観察には慎重を期した。

識別に確信のない個体及び識別に足る記録写真の撮れなかった個体は、この報告より全て除外した。この記録の最終観察日は、1996年6月27日である。

今冬は、三雲町曾原の養魚池にて、常に行動を共にする★アオアシシギ1羽と★コアオアシシギ1羽の越冬と別行動をとるアオアシシギ1羽の越冬が観察でき

た。

3月中旬に入ると、最初にホウロクシギ3羽が雲出川河口に飛来し、曾原の養魚池にはツルシギ7羽とオグロシギ1羽が訪れた。丁度、モンシロチョウ初見日の頃であった。

コチドリ、オオソリハシシギの訪問も早い。3月下旬になると日毎にツルシギが増えこの頃タグリが去った。4月中旬初め、曾原の養魚池ではツルシギが64羽の大群となり、嬉野町須賀の代掻き中の田でムナグロ32羽を初認し翌日は56羽を数えた。昨春と同様、ムナグロは海辺から数キロ離れた田畑で、より早く観察できた。

5月中旬になると、曾原の養魚池のツルシギ夏羽50～60羽の群は、徐々に飛び去った。

4月中旬にチュウシャクシギが飛来し、4月下旬に、ようやくキアシシギが登場した。

5月に入ると、チュウシャクシギもキアシシギも急速に数を増し、9日にはチュウシャク320羽、12日にキアシ684羽までカウントできた。

5月下旬になると、チュウシャクもキアシも急激に数を減じ、6月に入るとシギ・チドリの春のシーズンは終わりを告げ寂しくなったが、少数のキアシ、オオソリハシ、チュウシャクが残留した。イソシギは5月下旬に全く姿を消し、6月下旬より再び出現した。

昨春に比し、オグロシギの飛来が少なかった。昨秋に比すると、タカブシギが極めて少ない。★エリマキシギは冬羽1羽を観察。オバシギの群の中に★コオバシギ夏羽1羽であった。

	初 認 日	最 終 確 認 日
ミヤコドリ	越冬 4 三雲町五主	6/06 2 三雲町五主
タシギ	越冬 約40 三雲町、松阪市	5/14 2 三雲町曾原
タグリ	越冬 約30 三雲町、香良洲町	3/26 5 三雲町五主
ハマシギ	越冬 多数 三雲町、香良洲町	5/25約300 松阪市彌師町
イソシギ	越冬 約50 三雲町、嬉野町	6/25 1 三雲町五主
ダイシャクシギ	越冬 2 三雲町五主	4/27 1 三雲町五主
ダイゼン	越冬 約30 三雲町、松阪市	5/24 13 松阪市高須町
コアオアシシギ	越冬 1 三雲町曾原	5/17 1 松阪市高須町
アオアシシギ	越冬 2 三雲町曾原	5/29 1 三雲町喜多村新田
ホウロクシギ	3/11 3 三雲町五主	6/07 1 三雲町五主
ツルシギ	3/13 7 三雲町曾原	5/15 31 三雲町曾原
オグロシギ	3/13 1 三雲町五主	5/14 4 三雲町曾原
コチドリ	3/16 8 三雲町五主	6/27 約30 三雲町、松阪市
オオソリハシシギ	3/21 9 三雲町五主	6/27 1 松阪市松崎浦町
トウネン	3/27 1 三雲町五主	5/15 4 三雲町五主
エリマキシギ♂	4/06 1 三雲町曾原	4/06 1 三雲町曾原
クサシギ	4/07 1 三雲町曾原	5/11 1 津市雲出島貴町
ムナグロ	4/11 32 嬉野町須賀	5/13 13 三雲町舞出
チュウシャクシギ	4/17 7 三雲町五主	6/27 8 松阪市松崎浦町
キョウジョシギ	4/18 2 松阪市高須町	5/24 44 三雲町五主
ウズラシギ	4/24 1 嬉野町津屋城	5/11 3 三雲町喜多村新田
キアシシギ	4/25 5 三雲町曾原	6/27 2 三雲町曾原
メダイチドリ	4/26 2 三雲町喜多村新田	5/17 1 松阪市高須町
タカブシギ	4/26 1 三雲町喜多村新田	5/15 1 三雲町曾原
ソリハシシギ	5/09 2 松阪市高須町	6/06 5 松阪市高須町
オバシギ	5/10 3 三雲町五主	5/12 16 三雲町五主
オオジシギ	5/10 1 三雲町五主	5/13 1 三雲町曾原
コオバシギ	5/12 1 三雲町五主	5/12 1 三雲町五主
キリアイ	5/16 2 松阪市高須町	5/17 2 松阪市高須町
シベリアオオハシシギ	5/17 1 松阪市高須町	5/22 1 松阪市高須町

## ○三重県民の森探鳥会（三重郡菟野町千草）

- ・日 時：1996年4月26日（金）9:30～12:00 晴
- ・担 当：矢田栄史、尾畑玲子
- ・参加者：14名 観察種：20種

オオルリ、センダイムシクイ、サンショウクイと3種の夏鳥を確認できました。特にオオルリは初めて見る人、またリーダーを含め、今年の初認という人が多く、ほとんど場所を移動せずに、じっくりと姿とまだ初々しいさえずりを楽しみました。しかし、その他の種類は個体数も少なく、この時期としては林の中も静かに感じました。（矢田）

## [参加者の感想]

初めてオオルリの姿を近くで見ることができてとてもうれしかったです。今まで何気なく見ていた野鳥が身近なものに感じることができました。（初めて探鳥会に参加された方）

## ○椋川探鳥会（亀山市椿世町）

- ・日 時：1996年5月5日（日）9:00～12:15 曇後晴
- ・担 当：楢原 葵
- ・参加者：17名 観察種：29種

開始した頃は雨は止んでいたとはいえ空は暗かった。このような天候では鳥は鳴きも飛びもしない。見る鳥がいなくてドンドン歩くほかないので、弁当が必要としたことを反省した。しかし、集合場所へ近づいた頃は陽も差し、鳥も鳴きだして、今日のテーマ「さえずりを聞こう」がどうにか達成することができた。

## [参加者の感想]

- ・望遠鏡で見る野鳥の美しさに感動した。
- ・種々の鳥が見られて良かった。

## ○亀山1金探鳥会（亀山市椿世町）

- ・日 時：1996年5月10日（金）9:00～12:00 晴
- ・担 当：楢原 葵
- ・参加者：10名 観察種：24種

一年分の課題をきめるのはむづかしい。「オオルリを探そう」は完全に裏切られた。進んできた開発か、個体数の減少か。鳥の都合で今年はここへ寄らなかったのか。

## [参加者の感想]

- ・今日はカワセミが見られなかったので残念。
- ・種々の鳥を教えていただいてありがとう。

## ○神社の森と野鳥（伊勢市外宮勾玉池）

- ・日 時：1996年5月11日（土）13:00～14:15 曇
- ・担 当：杉浦邦彦、吉居瑞穂
- ・参加者：33名 観察種：14種

ドバト、アイガモ、カワウが増加、生態系が心配。コガモが多かった。冷えたせいか。（杉浦）

## ○亀山水曜探鳥会（亀山市亀山公園）

- ・日 時：1996年5月15日（水）9:20～12:00 晴
- ・担 当：楢原 葵
- ・参加者：15名 観察種：25種

「親子の観察」という標題であったが、ハシボソガラス、セグロセキレイ、バンの親子が観察できて、おむね良かったと思う。「子育て」は動物としての人間の共感を呼び覚ますものである。

## [参加者の感想]

- ・バンの親子が見られて可愛かった。
- ・チュウサギの飾羽が美しかった。
- ・ダイサギの羽づくろいがよかった。
- ・亀山でこれだけの鳥が見られてうれしい。

コアオアシは6羽は飛来した。昨夏、多く観察できたタマシギが全く見られない。

ケリ、シロチドリは留鳥であり、観察地で多数繁殖しているため別表より除外した。

★キリアイ夏羽2は貴重な記録と考える。5月17日午後1時半、松阪市高須町金剛川河口にてキリアイ夏羽の観察中、★シベリアオオハシシギ夏羽1を発見するおまけが付いた。

風の強い日であったが、泥土深く嘴を突っ込み採餌する本種を近距離で観察でき、夏羽の美しさに圧倒されて数多くの記録写真を撮った。三重県初記録と思わ

れる。当日、たまたま谷本勢津雄氏が通りがかられ、本種であることを確認して頂いた。筆者は、翌18日より私用にて国外に出たが、谷本氏により22日まで観察されたので別表に終認日を記した。

毎月、観察記録に対する貴重なコメントと本誌への投稿をお薦め頂く橋本太郎先生及び野鳥観察の現場にてご教示を頂く谷本氏に、この場をお借りしてあつく御礼申し上げます。

★印は、本部研究センター野鳥記録検討会にて公式記録と認定された。

○外城田川河口探鳥会（伊勢市外城田川河口）

- ・日 時：1996年5月16日（木）9:00～12:00 晴
- ・担 当：林 淳子
- ・参加者：9名 観察種：24種

初夏の日差しを浴びて、オオヨシキリのさえずりも一段と名調子だが、この場所も河川改修等によりアシ原がせばめられている。トビが堤防のコンクリート斜面にベタッと張りついて、日光浴でもしているみたいでしたがあれは何なのでしょう。

○愛宕川、櫛田川、シギ・チドリ探鳥会  
（松阪市愛宕川河口）

- ・日 時：1996年5月18日（土）10:00～12:00 曇
- ・担 当：谷本勢津雄、中村洋子
- ・参加者：12名 観察種：35種

高町の愛宕川の橋ではセッカがよく鳴いていた。その後河口（高須）へ移動する。河口には珍しいシベリアオオハシシギが来ていた。一同大感動でした。（中村）

○多度峡探鳥会（桑名郡多度町多度）

- ・日 時：1996年5月19日（日）9:00～12:00 曇後晴
- ・担 当：藤田克三
- ・参加者：10名 観察種：14種

今日の探鳥会は鳥の種類はあまり出ませんでした、いろんな草花が咲いていたので、これから先私自身植物や昆虫なども観察していきたいと思う。（鳥以外の他の自然にも目を向けていきたい。）

[参加者の感想]

- ・初めてオオルリを見られて良かった。
- ・これから皆と探鳥会へ参加して見たい。

○藤原岳山麓探鳥会（員弁郡藤原町）

- ・日 時：1996年5月21日（火）9:15～12:30 雨後曇
- ・担 当：楢原 稔
- ・参加者：12名 観察種：32種

藤原岳の頂上部がガスで視界が開けなかったためか、ワシ・タカ類がよく見られた。

自然環境の多様性と、生息する鳥の多様性を結びつけるようなまとめができなかった。

[参加者の感想]

雨が止み、暑くも寒くもなく、さわやかな風のもと多くの鳥が見られてうれしい。

○新緑の勝田大池探鳥会（度会郡玉城町）

- ・日 時：1996年5月25日（土）9:30～11:30 晴
- ・担 当：西村 泉、幹和
- ・参加者：9名 観察種：22種

田んぼでセグロセキレイの親子や、ムクドリの子に餌を与えるのをゆっくり見ることができた。池のそばの空地では、コチドリが営巣しているらしくしきりに鳴いて警戒していた。釣客の車が多いので、無事育つかどうか心配だ。

○三重県の鳥シロチドリを守ろう！（安芸郡河芸町）

- ・日 時：1996年5月26日（日）9:30～13:00 晴
- ・担 当：平井正志
- ・参加者：30名 観察種：21種

NHKへの対応などで初心者への案内が十分ではなかった。7月7日の海岸清掃日に出席してくれる人が確保できた。

○大杉谷シャクナゲ探鳥会（多気郡宮川村）

- ・日 時：1996年6月1日（土）11:00～  
2日（日）18:00 晴

- ・担 当：谷本勢津雄、中村洋子
- ・参加者：10名 観察種：28種

粟谷小屋の前でアオバト、ミソサザイ、クロツグミが鳴いている。姿は見えなかったが、コマドリ、コガラ、コルリ、ウグイス、ツツドリ。鳥の大合唱でした。大台辻までのコースは新緑につつまれ、鳥のさえずりにもつつまれとても楽しかった。（中村）

○亀山1金探鳥会（亀山市椿世町）

- ・日 時：1996年6月7日（金）9:00～12:40 曇
- ・担 当：楢原 稔
- ・参加者：8名 観察種：29種

今日も予定時刻に終了できなかった。テーマ「カワセミの採餌を見る」は本日の終了直前に達成された。小さな魚しかとらなかったので、「悪戦苦闘」は見られなかった。

[参加者の感想]

- ・いつも多くの種が見られるところだ。
- ・サシバが4羽も見られてよかった。親子だろうか。

## ○神社の森と野鳥（伊勢市外宮勾玉池）

- ・日 時：1996年6月8日（土）13:00～14:15 曇
  - ・担 当：杉浦邦彦
  - ・参加者：30名 観察種：12種
- 会員外の参加者が増加。一過性かどうか今のところ不明。市外の人が多い。

## ○亀山水曜探鳥会（亀山市亀山公園）

- ・日 時：1996年6月12日（水）9:20～11:50
  - ・担 当：植原 泰
  - ・参加者：16名 観察種：24種
- 今日は「水辺の鳥」がテーマだったが、カイツブリ、カワウ、ゴイサギ、チュウサギ、コサギ、バン、ケリ、カワセミ等が見られた。なかでもゴイサギは冠羽（3本）と第3指が長いところが見られ、カイツブリの親が子に給餌しているところ、ミスの少ないチュウサギのザリガニとりなど十分観察できた。カワラヒワがノアザミの種のほかにスイバの種を食べた。

## [参加者の感想]

始めほとんど見られなかったのが今日はだめかと思っただが、種々見られてよかった。

## ○ムササビ観察会（名賀郡青山町大村神社）

- ・日 時：1996年6月15日（土）18:30～20:30 曇
  - ・担 当：武田恵世、塗矢博一
  - ・参加者：15名 観察種：7種
- [参加者の感想]
- ・時間は守るように。
  - ・帰る少し前にコノハズクが鳴き出して、光をあてると飛び出した。これで今日はここに来て皆さん満足できたと思う。

## ○コノハズクの声を探そう

## （一志郡美杉村三重大学演習林）

- ・日 時：1996年6月22日（土）16:30～20:40 曇
  - ・担 当：坂元伸治
  - ・参加者：22名 観察種：10種
- 今年も大学寄宿舍で繁殖しているのか、キセキレイがアンテナにとまってさかんにさえずっている。
- 去年コノハズクが鳴いた所（上の広場）へ歩いて行く。川の流れの音ばかりで全然聞こえず、来た道を戻ると鳴き声が聞こえてきました。宿舍の近くで、「ブッポー、ブッポー、ブッポー」と鳴いていました。

## ○亀山水曜探鳥会（亀山市亀山公園）

- ・日 時：1996年7月10日（水）9:20～12:00
  - ・担 当：植原 泰
  - ・参加者：11名 観察種：24種
- 1 テーマ「鳥は夏をどのように過ごしているか」で行なった。緊張していないと思われる鳥の多くが口を開けている他、翼を軽く胸の部分から離しているところを観察した。
  - 2 望遠鏡を持った我々を見たキジのめす親は2羽の子を伏せさせ、緊張して我々を見張っていた。子の初列風切はまだのびていなかった。
  - 3 ピクチャーカードを使用して食物連鎖を話した。

## ○神社の森と野鳥（伊勢市外宮勾玉池）

- ・日 時：1996年7月13日（土）13:00～14:00 快晴
  - ・担 当：杉浦邦彦
  - ・参加者：30名 観察種：11種
- 新人が多い。毎回連続して来る人は少ない。ありふれた野鳥種の変化に注意することが必要である。

## [参加者の感想]

自然の植物の移り変りとともに野鳥相の変化が変わった。

## ○多度峡探鳥会（桑名郡多度町多度）

- ・日 時：1996年7月14日（日）9:00～12:00 晴
  - ・担 当：藤田克三
  - ・参加者：5名 観察種：14種
- 暑い割には野鳥達の数が少なく、参加された方には何とも申し訳ない思いです。が、夏場と言うことで、これも自然の摂理と言うのでしょうか、居ても人の目に入らないようにしているというか。私としてはそれをうまく説明したかったのですができなかった。反省、反省、これに尽きるようです。

## ○オオタカ、ハチクマ観察会（上野市友生）

- ・日 時：1996年7月14日（日）9:30～12:10 晴
  - ・担 当：武田恵世、塗矢博一
  - ・参加者：20名 観察種：17種
- サシバが木にとまって大サービスしてくれて、100mから30mまで近寄ってくれた。鳥合わせをしていた時、20m上空2羽飛んでくれて、参加者の期待に副えて満足した。青天で暑くて暑くて…。

## [参加者の感想]

サシバをゆっくり見られてよかった。

### 1996年1月ガンカモ科調査

(日本野鳥の会三重県支部)

種名	コクガン	コハクチョウ	ツクシガモ	オンドリ	マガモ	カルガモ	コガモ	トモエガモ	ヨシガモ	オカヨシガモ	ヒドリガモ	アメリカカヒドリ	オナガガモ	ハシビロガモ	ホシハジロ	キンクロハジロ	スズガモ	ホオジロガモ	ミコアイサ	ウミアイサ	カワアイサ	種数	合計
木曾川河口									13	5	35				178	66						5	297
榑栗・辰良川河口																		7				1	7
多度川下流							275															1	275
町屋川河口					2	5	269			8	77		325	4	67	9						9	766
朝明川河口											56		1		421	15	7					5	500
伊坂ダム				31	183	259	81		10	71	56		5	1	9						1	11	707
山村ダム					243	39	820	1	43		39		10		76	746	2					10	2019
海蔵川河口															98	2	1					3	101
三滝川河口							85				6			11	403	15						5	520
大井の川															241	20						2	261
鈴鹿川河口					10								1		180	53	1536			4		6	1784
柳池・柳池						86	97			26	51		7	63	387	40		2				9	759
鈴鹿川河口					5	15	7				11				34	1			3			7	76
石垣池					94		192						12	248	1300		38					6	1884
山上池					7	12					16		4	80	1900	12						7	2031
浄土池					24					17					15		120					4	176
道伯池					5	182																2	187
鈴鹿川庄野橋																							(1種)0
津賀池					2		4		3		17											4	26
加佐登調池					59		288				14		14	5	18							6	398
和田池					11	7								4	7	2						5	31
長田池																							0
公園池														2								1	2
中川～四洲橋						27	41			9	50		50	6	1539	59						8	1781
蛇谷池							1															1	1
五戸池					6		12							16	7							4	41
杉の谷池					6																	1	6
小古曾池						17	9															2	26
箕内池																							0
横山池							32								7			1				3	40
二重池																							0
田野池						2	25															2	27
安濃ダム				70	118	43																3	231
合の池						40																1	40
梅ヶ谷池														24	1	6						3	31
新池					1	12									3							3	16
志登茂川養魚池							4						2	10	2310	6	10					6	3242
志登茂川					45	130	22				15		150		7	9	2					8	380
安濃川河口					240	35		1	4	530		420										6	1230
岩田池					3		22		10	2				40	2400	320	4500					8	7297
雲出川古川																							0
雲出川新川河口					80				5	28		270										4	383
真泥池					91	37	25			11	34	1	4	17	8							9	228
みかずみ池															5		1					2	6
奥甘味池																							0
きょうこ池																							0
小田池					60																	1	60
百々池																							0
青蓮寺ダム					18																	1	18
原野前池						52	8			1			8		23	5						6	97
西徳明池						2	2			6												3	10
久米川							270															1	270
名張川夏見橋付近						6																1	6
名張川大屋橋付近																							0



種 名 調 査 地	コク カ ン	コ ハ ク チ ョ ウ	ツ ク シ ガ モ	オ シ ド リ	マ ガ モ	カ ル ガ モ	コ ガ モ	ト モ エ ガ モ	ヨ シ ガ モ	オ カ ヨ シ モ	ヒ ド リ ガ モ	ア メ リ カ ヒ ド リ	オ ナ ガ ガ モ	ハ シ ビ ロ ガ モ	ホ シ ハ ジ ロ	キ ン ク ロ ハ ジ ロ	ス ズ ガ モ	ホ オ ジ ロ ガ	ミ コ ア イ サ	ウ ミ ア イ サ	カ ワ ア イ サ	種 数	合 計
榑田川河口											45		4						2	3	51		
宝光池					435	318	344			56				14	52	44					7	1263	
八重田池					2		4								3	1					4	10	
山室の八重池					69								1								2	70	
カネボウの池					5																2	29	
五桂池					3	20	45														3	68	
粟生頭首湖					10																1	10	
中村池																					(工事)	0	
勝田池					3		252				2			2							4	259	
伊勢路川河口					187					23	958		84		26						5	1278	
宮川河口左岸					70			2		51	547				344	30					6	1044	
宮川河口右岸					173					20	566		58	5							5	822	
やすらぎ公園調整池						39	76				1										3	116	
伊勢市旭町西の湖め池																						0	
藤ヶ丘調整池								2													1	2	
オドリ池・湖池					60																1	60	
八間堀					50		100														2	150	
重ね池																						0	
まが玉池					104	1	20														3	125	
二つ池					35	82	119		2	9	47		7		62	103					9	466	
五十鈴川合大橋下流						21					2										2	23	
まつり博人工池															94						1	94	
サンアリーナ調整池						28	6				295		72	33	34	1					7	469	
加茂川河口							9				57										2	66	
神路ダム				15																	1	15	
穴川養魚場					22	6	21	20	207	1228		316	86	348	151	6					11	2411	
片田の池										4	78										2	82	
鶴方浜						5				52	34				35						4	126	
犬戻り峽						5															1	5	
片上池					24						70						3				3	97	
原野池																						0	
赤羽川河口	2				11	21					59										4	93	
海野池					58		14						1								3	73	
古柱池																					1	80	
前柱池											80										1	80	
船津川河口					10	2			2	50											4	64	
白石湖					2						120										2	122	
銚子川河口					48	30					130		2								4	210	
産田川						23	18														2	41	
下市木海岸					153																1	153	
養の池	2										8										2	10	
志原池		1			61	79	16				29										5	186	
合計	2	2	1	116	2908	1688	3663	1	92	597	5443	1	1828	671	13542	1716	6226	7	3	9	1	21	38517
高山ダム				76	64	7	39				2												188

【調査日】1/5, 1/13, 1/14, 1/15, 1/17, 1/18, 1/19, 1/20

【名称変更】(1995) 松阪港 → (1996) 榑田川河口、(1995) まつり博会場調整池 → (1996) まつり博人工池

【調査者】敬称略 (協力者) 伊勢谷正憲、榑本健二、東孝一、福田清人、福山守良 (5名) (会員) 市川美代子、市川雄二、今村直、大西幸枝、奥田崇雄、尾畑玲子、鹿島素子、北川真人、木村京子、木村裕之、杉浦邦彦、世古口有司、高和義、高橋松人、武田恵世、谷本勢津雄、中橋茂子、中村洋子、中村みつ子、西浦克征、西浦恵子、西村泉、西村幹和、塗矢博一、橋本祐子、波田徹三、濱中勝彦、林淳子、林雄一、平井正志、藤田克三、前澤昭彦、宮田たつ、山中久次、吉居清、吉居瑞穂 (36名)

【1995年調査、1996年末調査】梅之木池、神田堀、海山町馬瀬、大前池

【1995年末調査、1996年調査】多度川下流、海蔵川河口、大井の川、津賀池、加佐登調整池、志登茂川養魚池、志登茂川、安濃川河口、久米川、名張川夏見橋付近、名張川大屋戸橋付近、藤ヶ丘調整池、八間堀、サンアリーナ調整池、加茂川河口、原野池、赤羽川河口、前柱池、船津川河口、白石湖、銚子川河口、養の池、(高山ダム)

## 事務局より

残暑お見舞い申し上げます。

今年も暑い夏となりました（昨年よりは少しましですが）。台風も大型で強いものが多いようです。これは空気中の二酸化炭素が増えて、地球の温暖化が進んでいるためと考えられます。

フロンによるオゾン層の破壊でもたらされる紫外線も深刻な問題です。太陽の光を浴びて長時間活動することは、もはや危険なこととなりました。

◆冷暖房のエネルギー（電気、ガス、石油）や水の節約。

◆フロン製品を買わない、使わない。

◆自動車は使わない方がよいが、使う時は駐車中や長い停車時にエンジンを切る。

※一昨年の夏から、スーパーの駐車場などで、エンジンをかけたまま（おそらく冷房している）長時間駐車している車をよく見るようになりました。

上記以外にも、身のまわりのことで、私たち自身が気をつければできることはたくさんあると思います。自然や野鳥の好きな私たちから始めてみませんか。（木村京子）

## 編集部から

◇支部報の別冊の発行を予定しています。発行は今年度末となる見込みですが、その原稿を募集しています。内容は問いません。皆様のご寄稿をお願いします。別冊用と明記してお送りください。なお、誌名はもう決まっていますが、ナイショです。（シロチドリと関係のある言葉です）

◇「しろちどり」への投稿、寄稿も随時受け付けています。よろしくをお願いします。

## 編集後記

吉居さんの原稿に触発されて、屋久島紀行+屋久島だより\*2と、屋久島のミニ特集みたいになりました。私も世界文化遺産の島を一度は訪れてみたいと思いますが、なかなかそうはいきそうにもありません。◆自宅から1Kmも離れていない、アオバズクの営巣している木もあまり見に行っていませんが、近所の人のお話では今年も巣立ちは確認できなかったということです。◆近くの川からは、キアシシギの声が聞こえてきます。外に出てこいと誘ってくれています。（せ）

しろちどり第14号

1996年8月発行

表紙絵 今村 禎 題字 濱田 稔

編集 世古口有司

発行者 財団法人日本野鳥の会三重県支部

〒516 伊勢市宇治浦田2丁目9-4 杉浦邦彦方

TEL

印刷 館 印刷 〒510-13 三重郡菰野町田口1903-3